

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし 1階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100966		
法人名	株式会社 しずく		
事業所名	グループホーム しずくいし 1階		
所在地	〒020-0572 岩手郡雫石町西安庭15-81-26		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	令和6年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設運営理念にもあるように、その人らしく暮らすことを大切にしています。また利用者様、ご家族様、地域の方々とのきずなを大切にしています。 地域行事への参加、施設行事への来訪など、徐々に始めています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>御所湖や繋温泉、鶯宿温泉に近い自然豊かな住宅地にあり、法人が運営する特別養護老人ホームや老人保健施設等との連携が図られている事業所である。運営理念には、「安全で楽しく快適な生活、尊厳を守りその人らしく暮らす、地域・家族との絆を大切にすること」が謳われており、中でも「その人らしさ」を日々の関わりの中で意識しながら利用者支援に取り組んでいる。コロナ禍で苦慮しながらも地域との交流を大切に取り組んでおり、5月以降、安庭地区老人クラブとのプランターへの花植えや、地域の「むしまつり」を利用者も数年ぶりに見学することが出来た。今年は、地域住民や行政、事業所等地域の関係者が集まり年1回開催されている「お互い様情報交換会」に職員が参加し、地域の様々な方との情報交換を行うことが出来た。夏休みには、ラジオ体操の開催場所になっており、この期間は子供達の元気な声が聞こえ利用者の楽しみとなっている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームしずくいしの理念を掲げ共有し、日々のケアを実践している。	事務室に理念を掲げ、折に触れて唱和し皆で共有している。理念には、安全・楽しく、尊厳、その人らしさ、地域・家族との絆について謳われており、中でも「その人らしさ」については、日常的な関わりの中でも利用者の意向を尊重し、レクリエーション活動等も強制しないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、ホーム内でも感染者が出たため、地域交流はできなかった。	地域との交流が再開してきた。今年度は老人会とのプランターへの花植えが実施でき、地域の祭り(むしまつり)も行われ近隣の民族資料館の敷地内で見学することが出来た。「お互い様情報交換会(年1回)」にも参加し、地域住民や行政とも情報交換が行えている。夏休みの子供たちのラジオ体操の開催場所になっており、この期間は子供たちの元気な声が聞こえ利用者も窓から楽しそうにながめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合や運営推進会議、広報誌などで定期的に情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、情報提供や地域の困りごと、行政からの助言をもらっている。	今年度になって対面での会議を定期的に行うことができた。前回の外部評価時の課題への取り組みをしっかりと行い、地域、行政、事業所間において意見交換や協力関係を深めている。地域の協力者をさらに増やしていきたい意向もあり、近隣の公民館館長の参加への声を促していくこととしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に連絡を取り合っている。困難事例など相談に乗ってもらっている。	町の総合福祉課、地域包括支援センター、介護保険課との連携が図れている。総合福祉課の職員が運営推進会議の委員となっており、困難事例等の相談しやすい関係となっている。地域包括支援センターの職員からは、成年後見人申請の支援や在宅の方の入居支援等について協力をいただいている。生活保護受給者5人の生活状況の把握に、盛岡地方振興局の生活保護担当者も年1回来所している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム しずくいし 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チェックリストを用いて3ヶ月に一度自己チェックを行っている。その後、勉強会やカンファレンスを通して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒など防止の防止のため、離床センサーをしようする場合は事前に家族に説明し、同意をもらっている。	管理者やユニット長、職員2名が委員となり、身体拘束委員会を5回開催し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。虐待や身体拘束の自己チェックを3か月毎に行い、その結果を基に勉強会を開催して、言動等を振り返る機会としている。スピーチロックに気づいた場合には、職員間で注意している。転倒予防のための離床センサー利用者が6人いる。玄関の施錠については、防犯のため夜間だけ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリストを用いて3ヶ月に一度自己チェックを行っている。その後、勉強会やカンファレンスを通して虐待をしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を持ち、現在1名の利用者が日常生活自立支援事業を利用している。また成年後見制度も申請中で包括支援センターと話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重説など説明を行い、署名捺印をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族と情報交換を行い、玄関先にはご意見箱を設置し、いつでも投書できるようにしている。また外部者に関しては契約時に説明している。	3か月毎の介護計画の見直しや面会の際に、利用者や家族の要望・意向を把握するように努めている。家族アンケートを年1回実施しており、面会や通院等についての率直な意見が多く寄せられ、運営に活かすよう取り組んでいる。利用者の意向は、日常生活の会話や仕草等から把握し、実践につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談や日々の関わりから意見などあればその都度聞くようにしている。	管理者は、面談の実施計画を立て今年度は年1回の面談を予定しているほか、日常的な声掛けや聞き取りの中で、職員の意見等を把握している。業務上の提案については、可能な限り対応している。資格取得に向けた啓発を行い、希望者を中心に外部の勉強会へ派遣している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与を含め、加算もしっかり還元できるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会に加えて、外部研修にもできる限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会の定例会などに参加し、情報交換できる機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請受付後、本人と会う機会を持ち、生活環境やADLなどを自宅に訪問して確認するとともに会話や行動から不安や意向を伺い、入居後の参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申請の際に困っていること、入居した場合にホームでどのように生活してほしいか、生活していくうえで家族としてどんなことが心配であるのかを聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLに応じた福祉用具の導入(歩行器、介護靴、離床センサーなど)、おむつ助成券の申請、訪問診療の利用など対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな些細なことでも手伝って頂いたら感謝しお礼するなど人生の先輩として接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の中にも様々な事情があるので、そこを考慮しながら安心して任せて頂けるよう、コミュニケーションをとっていききたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、ホーム内でも感染者が出たため、馴染みの関係を保つことが出来なかった。	家族の他に近所に住んでいた方が面会に来てくれたこともある。今年になって、お盆や墓参りのために自宅に外泊する利用者があった。年末には、職員と一緒に家族に年賀状を書き、家族との関係が途切れないよう支援している。利用者は、2カ月に1回の訪問理容を利用し新たな馴染みとなっている。地域の踊りの会「省一会」が、敬老会の際に懐かしい踊りと語り部を披露してくれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で1人で過ごすことがないよう、個々の状態に合わせて余暇の過ごし方を工夫し、交流できるよう努めている。(塗り絵、歌、軽作業)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず老健や特養に転居の場合は、次の施設への情報提供の了解を家族より得てサービスが途切れないように対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のあらゆる場面での行動や言葉の中から本人の思いをくみ取れるよう努力している。入浴介助中や軽作業中、食事中などの会話も含め。	「その人らしく過ごす」という理念に基づき、利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。思いや意向を伝えることができる利用者が10人程おり、お手伝いしたい、役に立ちたい等の意向が多く聞かれ、茶碗拭きや洗濯物をたたむ等の利用者ができる事を職員と一緒にやり、その都度感謝の言葉を忘れないようにしている。意思表示が難しい方には、表情や反応を適切に見極め、チームケアで取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から馴染みの暮らし方の記入を頂いている。ほかに利用者個々のフェイスシートなどを確認しながら入居までの情報経過把握に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって利用者の体調、精神状態が異なるため、個々の状態に合わせて無理のない過ごし方を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきシートを用いて各スタッフが利用者に対する気づきを記入している。カンファレンスの際は利用者のアセスメントや気づきを基に利用者や家族の意向に沿った介護計画を作成している。	ケアプランは3ヵ月毎に見直している。居室担当がアセスメント(利用者・家族からの意向・情報収集)を行い、日常的な気づきを記す気づきシートに記載された意見を踏まえて評価・立案している。ケアマネジャーがそれを確認のうえで、カンファレンスを経て決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子、変化などは介護記録に記入し、情報共有に努めている。しかし、口頭だけで伝える場合もあり、共有できていないときもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策上、取り組みなった部分が多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策上、取り組みなった部分が多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとして鶯宿温泉病院の訪問診療を行っている。入居の際、かかりつけ医の継続か訪問診療への切り替えかを家族に選択してもらっている。	多くの利用者は、月1回来訪する訪問診療を利用しているが、入居前からのかかりつけ医に通院している利用者は、家族同行を基本としながら、利用者の状態等によっては職員が付き添うこともある。受診時には、日々の様子を記載した連絡票を家族に託している。歯科についても、希望により月1回の訪問歯科診療を受けている。事業所の看護師が利用者の健康観察に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化には常の情報を与えている。状態に応じて指示を受け、受診などの対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーを作成し、情報を提供している。病院や主治医や相談員との情報交換や病状把握を行い、場合によっては家族とも共有している。退院時も利用者の経過把握と帰所後の生活上の注意点も伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの低下や精神状態の変化について細かく家族に連絡を随時行えるよう努力している。老健、特養の申請についても家族と相談して行い、重度化に取り組んでいる。	「利用者の重度化及び見取り介護に関する指針」を作成している。年1回職員を講師とする研修会を開催し、職員の資質向上に努めている。入居時に重度化した場合の対応や喀痰吸引、医療行為ができない事など、事業所としてできることやできないことについて、利用者、家族に説明し理解していただけるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に対するマニュアルに沿って対応している。定期的な訓練を継続したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自主防災組織との連携にて会議にも参加した。災害時には避難場所としての役割を果たしたいと伝えている。	事業所は、ハザードマップでは水害対象区域となっていることから、年2回の火災想定訓練の他に、水害避難訓練も行っている。9月の火災を想定した避難訓練では、運営推進会議の開催日に合わせ、午前中に夜間想定避難訓練を行った。見学した委員の方々からの助言については、今後の訓練に活かすこととしている。災害時の支援については、地域の「お互い様情報交換会」の際に参集のメンバーに有事の協力をお願いしている。発電機のほか、ガスコンロ、反射式ストーブ、食品類・水等を備蓄している。	冬期間の避難には、2階の利用者の昇降機の利用や外階段での避難も想定されることから、実際に薄暗い時間帯に職員だけで訓練を行い、階段の凍結状況や昇降機の乗車に伴う課題の有無を明らかにすることを期待したい。また、短時間で一斉に職員へ連絡が取れる体制の構築やライト付きヘルメット等の安全に避難するための用品の常備についても、検討することに向けて期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を送るうえで、わからないところが増えている利用者には寄り添い、声をかけ、対応できるようにしている。	利用者の居室入室時のノックや排泄支援時のトイレのドアの開閉、声の大きさ、人目に付かないリハビリパンツ等の持参などに、特に配慮している。また、入浴時の異性介助の意向確認など、プライバシーへの配慮を徹底している。通常の介護支援時に確認できたことは、気づきシートに記入してカンファレンス等で共有し、きめ細かく支援するよう努めている。個人情報に関する書類は、事務室で管理している。外部に発信するチラシ等の利用者の写真掲載は、入居時に家族の意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや意志を表現できる利用者は多くないため、表情や行動を見ながら理解できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり、居眠りをしたり、座って過ごす利用者が多い。日常生活リズムが身につくペースを守って生活している利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問床屋で整髪している。その他、整容や好みの服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり盛り付けしてもらっている。食後の食器拭きやテーブル拭きも分担して行っている。利用者の誕生日にはリクエスト献立になっている。	献立は管理者が作成している。朝・夕食は夜勤者、昼食は日勤者が調理している。食事の準備や盛り付け、後片付けには、利用者もできる範囲で職員と一緒にしている。メニューは利用者の好みに合わせるよう心がけており、行事食や記念日食にも楽しんで食事が出来るよう工夫している。手作りおやつをすることもあり、彼岸団子や水木団子作りも行っている。職員も一緒に食事をし、食卓は団らんの場にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トイレ回数を気にしたり、お茶が嫌いだったりして控える利用者には好みの物をお出して、適正量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用して、定期的に口腔ケアを行っている。歯科医と連携して、個々に合った助言をもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	デリケートな部分であり、利用者のトイレ利用の際には「手伝いましょうか」など静かな声かけを行っている。パターン表を基に誘導したりして、なるべく汚染しないように支援している。	排泄チェック表を活用し利用者個々の排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた声掛けや誘導を行っている。現在は全員がトイレで排泄している。利用者の仕草にも着目し失敗のないよう目配りし、自立に向けた支援に取り組んでいる。便秘をしている利用者が多く、繊維質を摂取できる食事や水分摂取等を意識し、便秘の予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽運動と適切な水分、定時のトイレ誘導で習慣づけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴と、毎日の清拭を行っている。体調や心身の状態を見ながら声かけを行っている。	基本的に午後2時～3時頃の時間帯に2、3名ずつ週2回の入浴ができるよう支援している。入浴時の異性介助については、利用者の意向を確認して対応している。入浴時の対話を大切にするとともに、一人の時間を希望する利用者には、浴槽に浸かっている時は、見守りながら一人の時間を楽しんでいただいている。自分でできる事は、できるだけ自分で行うよう支援している。着替えは、職員の見守りの中で、利用者が自分で決めることができるよう支援している。入浴がない日には清拭を行っており、足に疾患がある利用者は足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や年齢、体調に合わせて休息や安静の声かけを行い、居室内の照明や外からの光の調節を行いながら、休んでいただけるようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診などでの処方変更の確認と周知を行っている。勤務者が薬の確認を行い、処方変更による利用者の体調変化も記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事はやりたいと前向きな利用者が多く、軽作業を職員と一緒にやっている。季節ごとの行事も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で実施はできなかったが、ドライブ(花見など)にはできる限り出かけた。	春は雫石駅付近の河川敷の花見に、秋には滝ノ上温泉方面の紅葉狩りにドライブに出かけている。天気の良い日には、近所を散歩し、地域の方々から声をかけてもらうこともある。5月の安庭地区老人クラブ交流会では、事業所前のプランターへの花植えを老人クラブ会員の方々と一緒に行うことができた。面会制限等も大分緩和され、家族と外食や外出、外泊に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会ができない時期は、電話での会話を楽しんだ利用者もいました。また毎月お便りで近況を家族にお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節ごとにホール内をディスプレイを変えている。利用者はそれを見ながら、笑顔になったり、会話を弾ませている。行事の写真を掲示すると自身の姿を見つけてうれしそうにしている。	ホールにはテーブル、椅子、ソファ、FFファンヒーターが備え付けられている。多くの利用者はホールで過ごすことが多い。居心地を良くするため、どの利用者の席からもテレビを観れるように配置している。また、職員の基本的な立ち位置から死角を作らないように工夫している。季節の装飾や写真を掲示した居心地の良い空間となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で外の花壇を眺めたり、遠くの山々を眺めている。ホールで会話したり、テレビを見たりしている。自席が一番落ち着く様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり、雑誌を届けて頂いたりしている。仏壇や遺影を置いて毎日拝んでいる利用者もいる。鉢植えなど置いている方もいる。	居室には、エアコン、クローゼット、ベッドが備え付けられており、配置等は利用者の意向で決めている。入居前に使っていた馴染みのテーブルや椅子、テレビ、鉢植え、亡夫の写真、位牌等を持ち込んでいる。家族や孫の写真等を壁に飾り、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内に身の回りのものが多くあると混乱する利用者には、家族の同意を得て最小限のものを置いているかたもいる。		